

高崎ユネスコ協会会長賞

しげんゴミから学んだこと

高崎市立片岡小学校 五年 上原 三歩

自分の家の近くのしげんゴミの、ゴミ捨て場には、いつも朝早くから、おばちゃんがあります。自分はいつも捨てるばかりで、どれぐらいたいへんなのかは知りませんでした。

朝になって自分はいつものようにおきてから、ゴミ捨てに行きました。そして、いつもどおりにおばちゃんがありました。けれども、おばちゃんのようにすは、いつもどおりではなさそうでした。こしをたたいていて、つらそうでした。そこで自分は手つだうことにしました。おばちゃんのやることをまねしたり、何をどうすればいいか聞いたりして手つだいをしました。手つだいをしていると、

「手つだってくれてありがとうねえ。」と言ってもらいました。そのとたん自分はとてもふしぎな気持ちになりました。なんだかふわふわと包まれるような、温かいような気がしました。

やっと日が高くなりました。なんだかいつもより、日が高くなるのがおそく感じました。すると、高くのぼった時と同時にあくびが出ました。花にきのうの雨の水が日光で光ってとてもきれいでした。おばちゃんはいつもこの風景を見ているのだと思うと、少しうらやましく思いました。そのあとに捨てられたざっしを整理するさ業をしました。ものすごく重いざっしは、かなりの力がいりました。なのに、となりを見ると、びっくりしました。なんのなんのというように、おばちゃんは軽々と持っていました。自分はそれを見てカッコいいと思いました。

やっと終わったと思ったら、ゴミを大量に持った人が、

「おはようございます。」と言ってゴミを置いていきました。すると、おばちゃんはおあたりまえのようにゴミをまた分別し始めました。そして、自分もまた分別をし始めました。これを何回もくり返すと思うと、すごく気がとおくなりました。いつのまにか、五

分、十分、十五分、二十分、三十分、そして一時間がけいかしました。やっと…やっと終わりました。最初はパパパパパッと終わるかと思いましたが、実際に手つだわせてもらうと、とても大変なことがわかりました。

家に帰って改めて考えてみると、おばちゃんのように、ボランティアをしてくれている人々の大変さや、ありがたみがすごく感じ取れました。

これからゴミを捨てる時は、今まで以上に感謝の気持ちを持って分別したり、ゴミを少なくしたりするよう努力しようと思いました。